

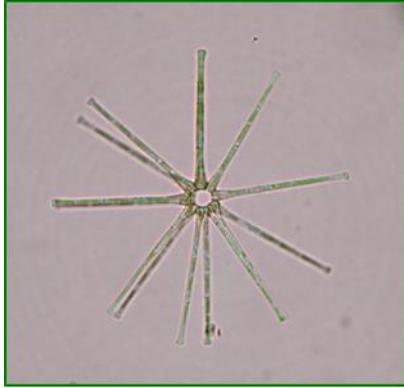
瀬田川プランクトン調査結果速報

～第43報～

滋賀県琵琶湖環境科学研究センター
生物圏担当
平成27年1月19日

1. 最も数が多かった種類(優占種)

植物プランクトン第1優占種



Asterionella formosa

(ホシガタケイソウ)

珪藻綱

4～32個の細胞が端で接着し、星形の群体を作る。細胞の殻面を見ると(通常は殻環面が見えている)両端が丸くなった長い棒形をしている。琵琶湖では以前から多く見られる種類である。

動物プランクトン第1優占種



Polyarthra vulgaris

(ハネウデワムシ)

輪虫類

体は四角く、4カ所に3本ずつ鳥の羽状の付属物を有する。前部に2本の触角がある。琵琶湖、瀬田川で見られるワムシのなかまの中で最も多く見られる種類である。

コメント

植物プランクトンでは、珪藻に属するホシガタケイソウ (*Asterionella formosa*) が引き続き優占種となった。体積で見ると、褐色鞭毛藻に属するクリプトモナス (*Cryptomonas* sp.) が優占種となった。網別の体積では、珪藻類が総体積の約49%、褐色鞭毛藻類が約42%を占めた。動物プランクトンでは、ワムシのなかまのハネウデワムシ (*Polyarthra vulgaris*) が300個体/Lで10週続けて優占種となった。ワムシのなかま、大型種のシンケーター・ペクチナータ (*Synchaeta pectinata*) が230個体/Lで第2優占種となった。ピコ植物プランクトンは、輝橙色のものが7,500細胞/ml、深赤色のものが840細胞/ml計数され、合計8,300細胞/mlであった。

2. 見つかった主なプランクトンとその数(個体数)

(1) 動物プランクトン

第 1 優 占 種		個体数 (個体/l)
ワムシ類	<i>Polyarthra vulgaris</i>	300

第 2 優 占 種		個体数 (個体/l)
ワムシ類	<i>Synchaeta pectinata</i>	230

* 個体数については、プランクトンネットで採取したものを直接検鏡して計測した。

瀬田川植物プランクトン調査結果速報

滋賀県琵琶湖環境科学研究センター
生物圏担当

(2) 植物プランクトン

平成27年1月19日

第43報

(綱) 種 名	細胞数 (群体数)		
		数	体積
(黄鞭) <i>Uroglena americana</i>	60		
(黄鞭) <i>Chrysamoeba radians</i>	10		
(黄鞭) <i>Synura petersenii</i>	32		
(珪) <i>Cyclotella glomerata</i>	80		
(珪) <i>Cyclotella</i> sp.	120		
(珪) <i>Stephanodiscus suzukii</i>	10		
(珪) <i>Stephanodiscus pseudosuzukii</i>	20		
(珪) <i>Fragilaria crotonensis</i>	310	○	
(珪) <i>Fragilaria capucina</i>	14		
(珪) <i>Asterionella formosa</i>	640	◎	○
(珪) <i>Synedra acus</i>	10		
(珪) <i>Cocconeis placentula</i>	10		
(珪) <i>Navicula</i> sp.	10		
(珪) <i>Nitzschia acicularis</i>	20		
(珪) <i>Nitzschia</i> sp.	10		
(渦) <i>Gymnodinium</i> sp.	30		
(渦) <i>Peridinium berolinense</i>	40		
(褐) <i>Cryptomonas</i> sp.	240		◎
(褐) <i>Rhodomonas</i> sp.	220		
(緑) <i>Quadrigula</i> sp.	16		
(藍) 藍藻綱	0	0.0	0.0
(黄) 黄緑藻綱	0	0.0	0.0
(黄鞭) 黄色鞭毛藻綱	102	5.4	3.2
(珪) 珪藻綱	1254	65.9	49.2
(渦) 渦鞭毛藻綱	70	3.7	4.9
(褐) 褐色鞭毛藻綱	460	24.2	42.4
(み) みどり虫藻綱	0	0.0	0.0
(緑) 緑藻綱	16	0.8	0.3
(他) その他のプランクトン	0	0.0	0.0
総 細胞 数	1902	総体積	1.05E+06
種 類 数	20	(μ m ³)	

- 注1) 細胞数の単位は(細胞/ml)
ただし*印の種は群体数(群体/ml)
- 注2) 優占種は◎が第1優占種、○が第2優占種
数字は各綱ごとの占有率(単位:%)
- 注3) 細胞体積は、顕微鏡観察による画像から
試験的に推定した概算値である。



ピコ植物プランクトン
1,000倍G励起で撮影

(3) 見つかったピコ植物プランクトンとその数(細胞数)

ピコ植物プランクトン数	1月19日 細胞数/ml
藍藻類 <i>Synechococcus</i> sp.	8,300

注1) プランクトンを大きさ別に分類したとき、大きさが0.2~2μ m(1μ mは1mmの1,000分の1)の最も小さなランクのものをピコプランクトンと呼んでいます。この中で光合成色素を持つものをピコ植物プランクトンと呼んでいます。ピコ植物プランクトンは細菌と同じくらい小さいので、落射蛍光顕微鏡を用いて観察し計数します。